

昭和52年5月25日 第3種郵便物認可 令和4年2月10日発行(毎月1回10日発行)



世界の円満  
人類の福祉

THE ENPUKU

2月

2022 No.497



世界法民連帯 円福友の会

## 円福友の会入会のすすめ

1食1円のSABA運動で世界の平和に尽くしましょう。

SABAとは、禅寺の僧堂でお食事の前に、七粒ほどのご飯をお膳のすみに取っておき、後で小鳥に施す「生飯(さば)」というお作法のことです。

これを日本の皆さんの1食1円のSABAとして、アジアの貧しい国々の子ども達のために学校建築(教育)や、井戸やトイレの設置(環境衛生向上)を支援する、国際ボランティア資金の運動です。1食1円ならどなたにもできます。塵も積もれば山となるように、皆さんの御協力をお願いする大きな愛の運動です。(この運動は、特定の政党や宗教や思想に関係のない、非営利の国民運動です。)

綴じ込みの郵便振替用紙を使い年会費やSABA運動等の協力金をお送りください。お送りいただいた皆様には毎月『圓福』と『おもいやり』をお送りし、円福友の会の活動と円福寺愛育園の子どもたちの様子をご報告いたします。

## 表紙の写真

「スラムの天使」の歩みと闘い(その十二)の「闘うコミュニティ・リーダーたち」でインタビューに答えた二人です。

本文(4p)をご覧ください。

「自分たちの役目は橋のない川に橋を架けるような存在であるよう心掛けています。」

と書かれています。コミュニティの代表として政治家に接するようにされたのです。

## 2月号の内容

にこにこ法話 齊家論(せいかりん)	1p
ドゥアン・プラティープ財団の40年—スラムの天使の歩みと闘い(その12)	4p
養育随想 心の養育 騙されたお話し(連盟)	7p
大心 御正忌(ごしょうき)	11p
敬愛信 六六年目のクリスマスプレゼント等	15p



ロータリーの友一  
月号に、「CSR／S  
DGsの時代に考え  
る職業奉仕」と題し  
た大阪学院大学森田  
健司教授の講演録が

掲載されていました。

CSRとは何で

しょう。企業の  
社会的責任です。

(Corporate Social

Responsibility)

SDGsとは何でしょう。持続可能な開

発目標です。(Sustainable Development

Goals)

最近この用語をよく見かけます。そし  
て、CSRとかSDGsの活動の報告も  
あります。でも、横文字で書かれるとな  
んとなく分かりにくいですね。

## 齊家論（せいかりん）

日本には江戸時代からCSRやSDGs  
の経営理念がありました。それが商家の  
家訓であり、それを言語化し確立したの  
が石田梅岩（1985〜1744）でし  
た。「齊家論」や「石門心学」はその次  
代のベストセラーで、近代日本を確立す  
る基礎になったともいえるそうです。

「齊家論」の「齊  
家」は「修身齊家治  
國平天下」にそのも  
とがあります。

この講演録を読み、その言葉をみたと  
きに、私は塩尻市立広丘小学校の「奨善  
会」を思い起こしました。広丘小学校は  
児童会を「奨善会」と呼び、児童会長を「奨  
善会長」と呼ぶのです。そして、「奨善会」  
はその名にふさわしい活動をしていま  
す。「奨善会」を名付けたのは歌人の島  
木赤彦でした。本名を久保田俊彦と言い

## ニコニコ法話

ます。広丘小学校の校長をしたときに、「校訓」として「奨善会」を遺したのです。その手書きの原文は広丘小学校にあります。私は櫻ヶ岡中学校に勤務していたときに「明治四十三年五月 広丘小学校 奨善会」と書かれた校訓のプリントを、依田公一校長先生からいただきました。そして大切に保管しておきました。紹介しましょう。

### 奨善会

我等が学校に学ぶは、正しく、強く、美しき心を得んがためなり。

正しく、強く、美しき心は、生るるより誰も皆持てる心なれども、学ぶにより養うにより修むるによりて、益々その光を現すに至るべし。光りを現さんとする奮励だにあらば三十年五十年

の後は遂に秀れた人材ともなりぬべし。されば我等が学校にありておおよそ左の事柄を心得べし。

一、我等の眼は常に輝き、我等の耳は常に聴く、我等の口は用なき時常に閉ざべし。

一、我等の手足は動く時風の如く疾く休む時林の如く静かなるべし。

一、正しきを見てはこれに赴かんを思ひ、難きを見てはこれを貫かんを思ひ、弱きを見てはこれを助けんを思ひ、公事を見ては力をいたさんと思ふ。我等の心は幼けれどもかくのごとく活けり。

一、一身治りて一級治り、一級治りて一校治る。一校治るの心は一家一郷一國治るの心なり。我等の心は小さけれどもかくのごとくして一國に閑せり。

ニクニコ法話

一・巧言令色すくなり仁といえり。剛毅朴訥仁に近しといえり。言はその巧ならんよりむしろ確かなれ。容はその美しからんよりむしろ清かれ。

石田梅岩は土農工商と最下位に置かれ、儒学思想で賤しいものとされていた商業を、「修身」と「齐家」で自らを律して店を安定させることが、一国天下の平和につながる素晴らしい行いであると説いたのです。

ところで、今の親や子どもたちに学校で学ぶ目的は何ですか？と聞いたら何と答えるでしょうね。

